

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	遊歩道・自転車道ネットワーク推進事業		
事業担当	経済部 商業観光課		
予算科目	00-xxxxxx-xx0000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民・観光客	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
安心、安全、清潔な観光コースが整備され、多くの人に利用されています。		市民の余暇活動などのニーズに対応するため、観光マップなどの活用により、遊歩道・自転車道の利用を促進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	事業進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：（パンフレット作成等）40%、H20：（検討会立上げ）20%、H21：（コース調査等）40%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		40	60	100				
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	②：若干遅れている								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
前年度と同様に湘南ひらつか観光マップやホームページの観光ナビゲーター等でやすらぎ回廊などをPRして、遊歩道・自転車道の利用を促進しました。また、遊歩道・自転車道の利用促進の検討会を立上げる予定であったが、体験型のニーズが高いとの観光アンケート結果等に基づき、試験的にやすらぎ回廊を利用した工場見学や農業体験のハイキングツアー2回実施しました。									
平成20年度の検証結果	B：おおむね成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民の余暇活動や健康づくりを増進するため、安全で快適に市内を巡る遊歩道・自転車道の利用を促進は必要です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目されており、遊歩道・自転車道の利用を促進有効です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目され、やすらぎ回廊を利用することによって市民に市内の名所などを知ってもらうことは妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	的確に市民の身近な観光ニーズを把握し、効率的にそのニーズ応えていく検討が必要です。	○ 高 ● 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目され、やすらぎ回廊のPRは重要と考えています。さらに、今後は的確に市民の身近な観光ニーズを把握し、やすらぎ回廊をからめた観光の推進をしていくことが必要です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			観光マップ作成・配布、コース現況調査	検討会の立ち上げ、コース調査	マップ作成・配布、コース調査	マップ配布、コース調査	マップ配布、コース調査	マップ配布、コース調査
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.55	0.55	0.30	0.30	0.30	0.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,616	4,616	2,507	2,507	2,507	2,507
フルコスト (A+B)		0	4,616	4,616	2,507	2,507	2,507	2,507

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> やすらぎ回廊などを湘南ひらつか観光マップやホームページの観光ナビゲーター等でPRするとともに、さらにやすらぎ回廊を利用したハイキングツアー等を企画してPRしていきます。	
平成22年度取組方針	
今後も、やすらぎ回廊のPRをしていくとともに、ハイキングツアー等を実施していく中で、参加者の意見等を調査し、更なる利用推進を検討していきます。	
課長コメント	東海大学と連携し、平成19・20年度に実施した研究事業で提案された自転車を活用したまち歩き事業を参考に、今後、他の地域にも広げていくことを検討していきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	②：若干遅れている
主な取組と成果		平成19年度で湘南ひらつか観光マップをリニューアル、70,000部作成し、本庁、分庁舎、公民館など各公共施設及び、観光キャンペーン、各イベント会場で配布した。ホームページの観光ナビゲーターでコース検索、巡回ができ、初めての方でも分かりやすくなった。潮風とうるおいロード・水と光と緑の散歩道のコース案内を別刷りで10,000部作成した。これらことから、遊歩道・自転車道の利用を促進した。	前年度と同様に湘南ひらつか観光マップやホームページの観光ナビゲーター等でやすらぎ回廊などをPRして、遊歩道・自転車道の利用を促進しました。また、遊歩道・自転車道の利用促進の検討会を立上げる予定であったが、体験型のニーズが高いとの観光アンケート結果等に基づき、試験的にやすらぎ回廊を利用した工場見学や農業体験のハイキングツアー2回実施しました。
検証結果	—	A：成果があがった	B：おおむね成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目され、やすらぎ回廊のPRは重要と考える。今後は市民からの情報を受ける体制も整えながら、検証し、インフラ整備も考慮する中で、市民に潤いのある余暇活動を提供できると考える。	多様化する余暇活動の中で、自然とのふれあいや健康の増進が注目され、やすらぎ回廊のPRは重要と考えています。さらに、今後は的確に市民の身近な観光ニーズを把握し、やすらぎ回廊をからめた観光の推進をしていくことが必要です。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		やすらぎ回廊整備のための検討会を段階的に行う。	今後も、やすらぎ回廊のPRをしていくとともに、ハイキングツアー等を実施していく中で、参加者の意見等を調査し、更なる利用推進を検討していきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公園整備事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
予算科目	01-080405-070000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 自治会など 】		
目的・目標		事業の概要	
市民が快適でやすらぎを感じられる、みどり豊かな魅力ある公園が充実しています。		市民が潤いとやすらぎの場を享受し、歴史・文化・スポーツに触れ合う機会を増やすため、住区基幹公園の整備を進めます。また、施設の老朽化が進んでいる公園については、再整備を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	3年間の公園整備進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：ワークショップ開催20%、H20：八幡山・高麗山公園再整備43%、H21：文化財調査・高麗山公園再整備37%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		20	63	100				
成果指標②	指標名	整備又は再整備した公園の数						単位	箇所
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績			2	1	1	1	1	
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
塚越公園整備ワークショップ2回を実施し、案をまとめました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	公園への多様化する市民ニーズにこたえるために、幅広い参加者からの意見を取り込む手法は必要性が高いと思われます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	市民が公園作りの段階から参加することによって、公園への愛着を持つことが期待され、その後の公園行政への協力も得られることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	管理運営のワークショップを行うことによって、公園維持管理運営を市民と行政が協働で行っていくことから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	公園作りだけでなく、管理運営までのワークショップに発展させて、市民と行政の役割を決め、協働することによって、効率の良い管理を行うことができます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行って行きます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			ワークショップ開催	文化財発掘調査、八幡山・高麗山公園再整備	文化財発掘調査、高麗山公園再整備	塚越公園整備、高麗山公園再整備、街区公園再整備	高麗山公園再整備、街区公園再整備	高麗山公園再整備
財源内訳	国庫支出金	0	0	72,720	62,180	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	71,000	55,000	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	62,234	27,941	258,500	56,500	83,500
事業費 (A)		0	0	205,954	145,121	258,500	56,500	83,500
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.60	1.60	1.90	1.90	1.90	1.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	13,426	13,426	15,877	15,877	15,877	15,877
フルコスト (A+B)		0	13,426	219,380	160,998	274,377	72,377	99,377

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 高麗山公園は、桜の開花には大勢の観光客が訪れます。しかしながら、桜の木も寿命や病気により減少してきているため、このままでは観光地としての存続が危ぶまれます。よって、桜の補植を行い復元を行います。また、アスレチック遊具は、遊具の損傷により撤去をしましたが、休日には、利用者が多く人気が高いため設置、規模等を検討し、公園の再整備を行っていきます。	
平成22年度取組方針	
既存公園の再生に向け、既存施設に固執しないような計画を検討します。	
課長コメント	現在、公園整備においてワークショップは必要不可欠となっています。今後も、公園整備計画に合わせ市の方針は提言しますが、市民・地域が何を求めているのか検証するとともに協働で実施していきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		桜ヶ丘公園整備ワークショップ4回、桜ヶ丘管理運営ワークショップ7回、塚越公園整備ワークショップ3回を実施し、案をまとめた。	塚越公園整備ワークショップ2回を実施し、案をまとめました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行っていきたい。	地域住民とワークショップ等を通じ協働で基本構想を作ります。また、管理についても行政と地域の役割分担を行って行きます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		既存公園の再生に向け、既存施設に固執しないよう計画検討をし実施する。	既存公園の再生に向け、既存施設に固執しないような計画を検討します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	馬入花畑整備事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
予算科目	01-080301-070000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input checked="" type="checkbox"/> 馬入花畑の会】		
目的・目標		事業の概要	
馬入の花畑「馬入・光と風の花づつみ」が、市民に愛され、魅力ある花畑になっています。		馬入の花畑「馬入・光と風の花づつみ」を愛される拠点にするため、市民との協働による維持管理を行い、魅力ある花畑とします。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		2	2	2	2	2	2	
	実績		2	2					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	イベント時来場者数						単位	人/回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		8,500	9,000	9,500	9,600	9,700	9,700	
	実績		9,000	9,000					
成果指標②	指標名	年間ボランティア参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		600	600	610	620	630	630	
	実績		809	590					
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
イベントについては、春にはポピーの摘み取り、秋にはコスモスの摘み取りを行い、マスコミにも大きく取り上げられるなど、認知度も上がり来場者数も増えました。また、ボランティア活動に関しては、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきています。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民の憩いの場として電話の問い合わせも多く、関心は高いものがありますが、約3.0haの花畑をボランティア組織だけで維持管理することは難しいため、市の関与の必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	来場者は年々増加傾向にあり、市民満足度は高いと思われます。今後も継続して事業を行っていくことで、観光資源としての位置づけも考えられるため、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	河川敷の不法投棄が深刻な状態であり、その対策として本事業を行ってきましたが、年々来場者数も増えていることから、観光資源としての充実を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	ボランティア組織の拡大や企業参加等の拡大を図っていく必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

広大な面積を維持管理していくためには、市費の投入が必要と思われますが、ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、市費の投入を抑えていく必要があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			各種イベントの開催・区画の見直し	各種イベントの開催・園路整備	各種イベントの開催・あずまの検討	各種イベントの開催・あずまの検討	各種イベントの開催・あずまの検討	各種イベントの開催・あずまの検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	15,968	14,814	14,835	14,835	14,835	14,835
事業費 (A)		0	15,968	14,814	14,835	14,835	14,835	14,835
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	8,224	8,224	8,189	8,189	8,189	8,189
フルコスト (A+B)		0	24,192	23,038	23,024	23,024	23,024	23,024

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 植栽等の工夫により四季を通じて市民が憩える空間づくりを行っていきます。	
平成22年度取組方針	
地元企業が社会貢献を行う場所として、市が広報活動を行うことにより企業の参加を促進し、ボランティア活動の充実を図ります。	
課長コメント	今後も継続した事業を行うことで、広く市民に周知され観光の拠点となるよう努めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		イベントについては、春にはポピーの摘み取り秋にはコスモスの摘み取りを行いマスコミにも大きく取り上げられ認知度も上がり来場者数も増えた。また、ボランティア活動に関しては、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきている。	イベントについては、春にはポピーの摘み取り、秋にはコスモスの摘み取りを行い、マスコミにも大きく取り上げられるなど、認知度も上がり来場者数も増えました。また、ボランティア活動に関しては、馬入花畑の会以外にも地元企業や地域の小学生などの参加により活発になってきています。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		広大な面積を維持管理していくためには、市費の投入が必要であるが、ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、市費の投入を抑えていく必要がある。	広大な面積を維持管理していくためには、市費の投入が必要と思われませんが、ボランティア組織の拡充や地元企業の参加促進により、市費の投入を抑えていく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		地元企業が社会貢献を行う場所として、市が広報活動を行うことにより企業の参加を促進し、ボランティア活動の充実を図る。	地元企業が社会貢献を行う場所として、市が広報活動を行うことにより企業の参加を促進し、ボランティア活動の充実を図ります。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	交通安全総点検事業		
事業担当	市民部 くらし安全課		
予算科目	01-080101-020000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働：自治会、学校関係、障害者団体外】		
目的・目標		事業の概要	
市民参加による点検で交通安全に関する市民意識を高めるとともに、点検結果に基づき道路交通環境を改善することで、市民が安全で快適に道路を利用しています。		交通安全の意識を高め、誰もが安心して利用できる道路交通環境をつくるため、市民が道路利用者の立場から状況把握や点検を行い、危険箇所の改善を関係団体へ要望します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	交通安全総点検実施回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	1	1	1	1	
	実績		1	1					
活動指標②	指標名	交通安全総点検参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		65	65	65	65	65	65	
	実績		60	55					
成果指標①	指標名	点検済み道路延長率						単位	%
	説明・算定式	実施済み延長 ÷ 196 km（年間約7 km × 市内28区域） × 100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		36	46	49	53	56	60	
	実績		42	46					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
交通安全の意識を高め、安心して利用できる道路環境をつくるための状況把握や点検を行い、危険箇所の改善を進めることができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	道路利用者の視点から問題点を洗い出すことにより、安全で適切な管理が行われています。 継続して行うことにより、地域の道路交通環境が改善されています。 地域の交通安全対策を市民目線で実施することで、安心して利用できる道路交通環境づくりに生かされています。 現状の手法により、安心して利用できる道路交通環境づくりが行われているため、効率性が高いものと考えます。
今後に向けた課題の分析 参加対象者の拡大、見直しや地域ごとの問題点の整理方法を考える必要があります。						

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			通学路などの危険箇所の点検、改善の要望	通学路などの危険箇所の点検、改善の要望	通学路などの危険箇所の点検、改善の要望	通学路等の危険箇所の点検、改善の要望	通学路等の危険箇所の点検、改善の要望	通学路等の危険箇所の点検、改善の要望
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	18	46	87	87	87	87
事業費 (A)		0	18	46	87	87	87	87
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	5,455	5,455	5,432	5,432	5,432	5,432
フルコスト (A+B)		0	5,473	5,501	5,519	5,519	5,519	5,519

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 交通安全の意識を高め、安心して利用できる道路交通環境をつくるための状況把握や点検を行い、危険箇所の改善を進めることが引き続き必要です。	
平成22年度の実行方針	
行政の視点とは違った問題提起に対する取りまとめの方法を工夫していきます。また参加対象者の見直しなども検討していきます。	
課長コメント	市民、関係機関・団体と協働して地域の交通安全について点検し、危険箇所の発見、改善を進め、地域における良好な道路交通環境を創出していくために事業を継続していきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		交通安全の意識を高め、安心して利用できる道路環境をつくるための状況把握や点検を行い、危険箇所の改善を進めることができた。	交通安全の意識を高め、安心して利用できる道路環境をつくるための状況把握や点検を行い、危険箇所の改善を進めることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		地域ごとの問題点の整理方法を考える必要がある。	参加対象者の拡大、見直しや地域ごとの問題点の整理方法を考える必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		行政の視点とは違った問題提起に対する取りまとめの方法を工夫していく。	行政の視点とは違った問題提起に対する取りまとめの方法を工夫していきます。また参加対象者の見直しなども検討していきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	今後DID地区においては登記の際に世界測地系での境界確定図が必要となるため市民ニーズ、市の関与の必要性があります。20年度は4.45km ² （市内全域の7%）について世界測地系への移行が終了しました。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	公共工事や用地買収及び維持管理等の上位施策を行うために必須です。世界測地系の境界確定面積が増加することにより土地情報の共有化・明確化ができ市民満足度が向上します。継続により確定面積が増加します。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	本事業は国土調査法、測量法などで規定されています。また本事業は国庫負担金事業（国50%県25%）です。人員は境界立会いに2名、窓口2名、庶務に1名最低必要で、会議・出張等を考慮すると最低限の人員です。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input type="checkbox"/> その他	国の事業である土地活用促進事業を活用し本事業の先行調査を行いました。さらに国庫負担金の活用により市費のコストを削減しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

平成19年度から行っている国の事業である土地活用促進事業は市街地の現存する境界標を測量しており、20年度でDID地区全域において先行調査が終了しました。その成果と市で保存している境界確定図の誤差の解消を順次進めていきます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行	境界の座標値を世界測地系へ移行
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	45,652	43,725	60,000	60,000	60,000
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	15,646	15,094	20,000	20,000	20,000
事業費 (A)		0	0	61,298	58,819	80,000	80,000	80,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.55	1.55	1.40	1.40	1.40	1.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	13,007	13,007	11,699	11,699	11,699	11,699
フルコスト (A+B)		0	13,007	74,305	70,518	91,699	91,699	91,699

4. 今後の事業展開（担当課としての提案）

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 平成20年度で国の事業での先行調査は終了しました。今後は平成20年度と同様の規模で継続していきます。	
平成22年度 of 取組方針	
補助金事業なので、今後も計画通りの進行が出来るよう補助金申請を行っていきます。	
課長コメント	地籍調査事業は、市の財産及び市民の財産を管理するうえで非常に重要な事業です。土地情報の明確化と共有化であり、パソコンを利用したの庁内閲覧に移行することで、公共事業の効率化等の庁内業務が的確かつ迅速になり、市民サービスの向上が十分に期待できます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		平成19年度は本事業の調査のため、19件の測量委託を国の事業で行った。20年度以降は調査資料を基にして市費を用いて境界確定図を世界測地系座標のものへ移行していく。	平成20年度は本事業の先行調査のため14件の測量委託を国の事業で行い、DID地区全域において先行調査が終了しました。同時に、先行調査の結果を元に、予定では4件の測量委託を発注するところ3件で済み、かつ面積は予定では4%のところ7%について境界確定図の世界測地系への移行が終了しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		平成19年度に行った国の事業である土地活用促進事業は市街地の現存する境界標を測量している。本年度からその成果と市で保存している境界確定図の誤差の解消を進めていく。	平成19年度から行っている国の事業である土地活用促進事業は市街地の現存する境界標を測量しており、20年度でDID地区全域において先行調査が終了しました。その成果と市で保存している境界確定図の誤差の解消を順次進めていきます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		20年度から市費を投入する事業なので、今年一年間実施した結果で改善等できるところがあれば改善していきたい。	補助金事業なので、今後も計画通りの進行が出来るよう補助金申請を行っていきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	違反屋外広告物除却事業		
事業担当	土木部 土木調整課		
予算科目	01-080101-030000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 除去ボランティア、自治会等】		
目的・目標		事業の概要	
除却協力員による、違法なはり紙や立看板などの撤去により、安心・安全な道路環境に寄与しています。		まちの美観を保つため、道路上のはり紙や立看板などの違反屋外広告物を、商店会・自治会・PTAなどによる協力員と協働で除却活動を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	除却協力員活動回数						単位	回
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		80	90	60	65	70	75	
	実績		57	49					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	除却協力団体数						単位	団体
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		15	16	15	16	17	18	
	実績		13	13					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	想定していたよりも除却協力員の活動回数が少なかったためです。							
平成20年度の主な取組と成果									
除却協力員の活動回数は減少しましたが、除却協力団体数は昨年度数を維持できました。さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン（12月13日）などで立看板61基、はり札255枚、はり紙2449枚を除去し、市街地の美観を保つことができました。									
平成20年度の検証結果	B：おおむね成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	違反屋外広告物の放置は、美観を損ねるだけでなく、青少年への影響も憂慮されます。また、違反屋外広告物の撤去・除却は、市が委嘱した協力員のみが出来るため、市の関与は大きいです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業を継続して実施することにより、違反行為の抑制と、地域の安全意識の向上にも繋がります。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	まちの美観を保つため、道路上のはり紙や、立看板等の違反屋外広告物を商店街、自治会、PTA等の協力員と協働で除却活動を行います。また、一部業者に委託を行っています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	除却協力員を通じ、市民が率先して活動を実施する契機とします。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の充実に取り組みます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援	協力員への活動支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	3,525	3,304	3,352	3,352	3,352	3,352
事業費 (A)		0	3,525	3,304	3,352	3,352	3,352	3,352
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	6,294	6,294	6,267	6,267	6,267	6,267
フルコスト (A+B)		0	9,819	9,598	9,619	9,619	9,619	9,619

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 協力員の充実を計って、事業を継続していきます。	
平成22年度 of 取組方針	
まちの美観を保つため、違反屋外広告物を除却活動協力員の充実を図り、協働で除却活動を行っていきます。	
課長コメント	若干の業者委託はあるものの、大枠は「まちをきれいに」という市民の気持ちの高まりによる、市民が主体となった活動であり「協働」にふさわしい事業と考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	②：若干遅れている	③：遅れている
主な取組と成果		中心街すっきりさわやかクリーンキャンペーン（6月2日）、さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン（12月15日）などで立看板10基、はり札91枚、はり紙1692枚除去	除却協力員の活動回数は減少しましたが、除却協力団体数は昨年度数を維持できました。さわやかで清潔なまちづくりキャンペーン（12月13日）などで立看板61基、はり札255枚、はり紙2449枚を除去し、市街地の美観を保つことができました。
検証結果	—	B：おおむね成果があがった	B：おおむね成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の増大に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の評価は高い。妥当性の部分で活動団体の充実に取り組みます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		まちの美観を保つため、違反屋外広告物を除却活動協力員の増大を図り、協働で除却活動を行う。	まちの美観を保つため、違反屋外広告物を除却活動協力員の充実に図り、協働で除却活動を行っていきます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	花のふれあいスポット推進事業		
事業担当	土木部 土木補修課		
予算科目	01-080202-010000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 自治会等各種団体、個人】		
目的・目標		事業の概要	
地域住民の理解と協力により、道路残地などを活用した緑化を推進し、併せて道路環境に対する意識の高揚を図り、市民が緑豊かな空間の中で暮らしています。		道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間を形成するため、市民が道路残地などに植栽する草花を提供します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	苗木提供量						単位	本
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		900	950	1,000	1,050	1,100	1,500	
活動指標②	指標名	-						単位	-
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績			-	-	-	-		
成果指標①	指標名	市民による緑化協力箇所数						単位	箇所
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		2	3	4	5	6	7	
成果指標②	指標名	-						単位	-
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績			-	-	-	-		
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
平成19年度と同様、宝町商店会、八幡商店会、平塚農業高校の3団体に苗木を提供し、道路沿いの緑化が継続的に図られました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民との協働による道路沿いの緑化であり、道路愛護意識の向上が図られる上で必要な事業です。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	市民との協働による道路沿いの緑化により、道路愛護意識の向上や、市民満足度が増すなどの有効性がある事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市民との協働による道路沿いの緑化により、道路愛護意識の向上が図られる、妥当性のある事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	市民との協働により、維持管理費の削減など、効率化も図られる事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

市民との協働による道路の維持管理は、今後必要性が増大と考えます。
 今後は、市民の協働への意識啓発や協働要望に応えられる仕組み作りを市全体として整備していくことが必要と考えます。
 (例：花を植えたい要望等に対し、道路残地、公園敷地などを一括的に整理し、市民に提案できるメニューの検討など)

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			苗木の配布、除草 など	苗木の配布、除草 など	苗木の配布、除草 など	苗木の提供	苗木の提供	苗木の提供
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	133	121	200	200	210	220
事業費 (A)		0	133	121	200	200	210	220
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,518	2,518	2,507	2,507	2,507	2,507
フルコスト (A+B)		0	2,651	2,639	2,707	2,707	2,717	2,727

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 地域住民の理解と協力により、今後も道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間の形成のため、継続して実施していきます。	
平成22年度取組方針	
地域住民の理解と協力により、今後も道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間の形成のため、継続して実施していきます。	
課長コメント	地域住民の理解と協力により、今後も道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間の形成のため、継続して実施していく必要があります。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		宝町商店会、八幡商店会、平塚農業高校の3団体に苗木を提供し、道路沿いの緑化が図られた。 さらに、平成12年度からの協力団体である平塚農業高校が第19回「みどりの愛護」功労者国土大臣表彰を受賞した。	平成19年度と同様、宝町商店会、八幡商店会、平塚農業高校の3団体に苗木を提供し、道路沿いの緑化が継続的に図られました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		市民との協働による道路の維持管理は、今後必要性が増すと考える。 今後は、市民の協働の意識啓発と協働要望に応えられる仕組み作りが必要。 (例：花を植えたいとの要望等に対し、道路残地、公園敷地などを一括的に整理し、市民に提案できるメニューの作成など。)	市民との協働による道路の維持管理は、今後必要性が増大と考えます。 今後は、市民の協働への意識啓発や協働要望に応えられる仕組み作りを市全体として整備していくことが必要と考えます。 (例：花を植えたい要望等に対し、道路残地、公園敷地などを一括的に整理し、市民に提案できるメニューの検討など)
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		地域住民の理解と協力により、今後も道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間の形成のため、継続して実施していく。	地域住民の理解と協力により、今後も道路愛護意識の向上と潤いのある道路空間の形成のため、継続して実施していきます。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	花と緑のふれあい拠点に訪れる人々や周辺住民等の利便性を図るため、周辺道路整備の必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	花と緑のふれあい拠点に訪れる人々や、周辺住民の安全性が確保され、有効性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	県市協調道路整備事業に位置付けた道路は、県から応分の負担金を受け整備を進めています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	県と役割分担を決め、協調して道路整備を行うことは、効率性が高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 平成22年3月の花と緑のふれあい拠点(仮称)の開園に向けて、進入道路や周辺道路の整備を県市協調して事業の推進を図ります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位:千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			用地買収・道路整備	道路整備	道路整備			
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	46,820	51,868	90,000	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	46,820	51,868	40,779	0	0	0
事業費(A)		0	93,640	103,736	130,779	0	0	0
執行率(%)		—	—	—				
内訳	職員(人)	0.00	0.95	0.95	0.65	0.00	0.00	0.00
	再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費(B)		0	7,972	7,972	5,432	0	0	0
フルコスト(A+B)		0	101,612	111,708	136,211	0	0	0

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input checked="" type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 事業目的の達成により終了となります。「花と緑のふれあいセンター」開園後は、総合計画の歩道設置事業に位置付け、順次計画的に整備を進めます。	
平成22年度取組方針	
課長コメント	花と緑のふれあいセンターの南側歩道は、県市協調事業の路線として平成21年度までに完成を予定しています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		寺田縄25号線の整備及び、周辺道路予定地の用地買収や物件補償を行うことにより、安全で快適な道路整備を推進した。	寺田縄・飯島線、寺田縄45号線の整備及び、周辺道路予定地の用地買収や物件補償を行うことにより、安全で快適な道路整備を推進しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		花と緑のふれあいセンター開園後も、周辺道路の利用状況を勘案して引き続き県と協調した事業の推進を図る。	平成22年3月の花と緑のふれあい拠点（仮称）の開園に向けて、進入道路や周辺道路の整備を県市協調して事業の推進を図ります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	終了
取組方針		県道拡幅部分は県から100%、その他は50%の負担金を受け、市が施工する。	
事業区分	—	実施計画事業	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	行政が実施主体となり、市民ニーズに対応するため、道路改良を行う。生活道路を整備することで、快適な生活環境が図れることから必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	生活道路を拡幅することにより、交通の利便性を図り生活環境の有効性を高める必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input checked="" type="checkbox"/> その他	市民生活に欠かせない道路整備であり、安全で快適な生活環境の確保が必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	道路整備のコスト削減に取り組みます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進めます。		

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			用地買収・道路整備	用地買収・道路整備	用地買収・道路整備	工事、用地買収・補償、測量	工事、用地買収・補償、測量	工事、用地買収・補償、測量
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	17,633	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	50,000	50,000	50,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	171,792	124,020	113,600	63,600	63,600	63,600
事業費 (A)		0	171,792	141,653	113,600	113,600	113,600	113,600
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	2.65	2.90	2.50	2.50	2.50	2.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	22,237	24,334	20,890	20,890	20,890	20,890
フルコスト (A+B)		0	194,029	165,987	134,490	134,490	134,490	134,490

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 生活道路である一般市道の整備については毎年自治会から多くの整備要望があり、継続路線の他新規整備路線の優先順位を定め測量、用地買収、工事等計画的に事業を進めます。	
平成22年度の実行方針	
現地調査を行い、地区の利便性や危険箇所等で緊急性を要する路線など優先順位を定めて整備を進めます。	
課長コメント	市民の生活環境に直接関連する事業であり、積極的な道路整備を行うことにより、地域住民の住環境の向上が期待できます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		徳延6号線、土屋57号線、大神85号線、長持56号線、横内15号線、四之宮5号線、土屋69号線を整備し、南金目65号線の局部改修を行うことにより、生活環境の安全性・利便性の向上を図った。	四之宮4・5号線、西八幡17号線、長持56号線、下島12号線、片岡15号線、城所6号線、土屋69号線、片岡22号線を整備し、生活環境の安全性・利便性の向上を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		地域住民からの整備要望箇所であり、地域の方々の協力を得て事業を進めるが、整備計画については優先順位を定め対応する。	生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		整備要望も多く用地買収も伴うことから、継続事業を優先し地区の利便性や危険箇所等で緊急性を要する路線を先行し、整備を進める。	現地調査を行い、地区の利便性や危険箇所等で緊急性を要する路線など優先順位を定めて整備を進めます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	交差点改良事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
予算科目	01-080203-040000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
右折帯を創ることにより、交通渋滞の緩和が図られ、騒音などが低減され、市民が快適に暮らしています。		交通渋滞の解消や事故を防止するため、車両がスムーズに交差点を通過できるよう右折帯を設置します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	3か年の交差点改良進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19年度：交差点改良工事45%、H20年度：用地測量10%、H21年度：用地買収45%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		45	55	100				
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
真土・金目線（西沖田交差点）の改良工事を行うことにより、交通渋滞の緩和を図りました。また同線の高砂交差点改良工事に伴う測量調査設計を行いました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	交差点を改良し右折帯を設置することは、交通渋滞の解消や事故防止のため、必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	右折帯を設置することにより、交通の利便性を図り、生活環境の有効性を高める必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input checked="" type="checkbox"/> その他	市民生活に欠かせない道路整備であり、安全で快適な生活環境の確保が必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	道路整備のコスト削減に取り組みます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		警察等と協議を行い、改良が必要な交差点の優先順位を定め、整備を行います。		

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			交差点改良工事	用地測量	用地買収・測量	工事、補償	工事、用地買収・補償、測量	工事、用地買収・補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	53,350	22,880	8,800	30,624
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	39,000	50,000	60,000	80,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	32,174	32,049	114,446	60,720	68,640	97,376
事業費 (A)		0	32,174	32,049	206,796	133,600	137,440	208,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.45	0.80	1.30	1.30	1.30	1.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	3,776	6,713	10,863	10,863	10,863	10,863
フルコスト (A+B)		0	35,950	38,762	217,659	144,463	148,303	218,863

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 交差点の右折帯設置は交通渋滞の解消につながるため、現状の規模で事業を継続します。	
平成22年度の実行方針	
吉沢・土屋線の中沢橋交差点及び県道平塚・松田線と土屋20号線との交差点の用地買収や改良工事を行います。	
課長コメント	交差点を改良し右折帯を設置することは、渋滞解消等の効果が期待されるため、市としても積極的に事業を進めます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		真土・金目線（西沖田交差点）の改良工事を行うことにより、交通渋滞の緩和が図られた。	真土・金目線（西沖田交差点）の改良工事を行うことにより、交通渋滞の緩和を図りました。また同線の高砂交差点改良工事に伴う測量調査設計を行いました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		警察等と協議を行ない、改良が必要な交差点の優先順位を定める。	警察等と協議を行い、改良が必要な交差点の優先順位を定め、整備を行います。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		継続事業を優先するとともに、危険箇所など緊急性を要する交差点の整備を行なう。	吉沢・土屋線の中沢橋交差点及び県道平塚・松田線と土屋20号線との交差点の用地買収や改良工事を行います。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	狭あい橋を整備することで安全性が保たれ、快適な生活環境が図れることから、必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	歩行者に対する安全の確保や、車両の通行の円滑化が図れ、有効性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	安全で快適な生活環境の確保から、妥当性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	橋りょう整備のコスト削減に取り組みます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 狭あい橋の改修を進めるにあたり現橋の状況(車道幅員、歩道の有無等)、地域の利用特性、整備効果等から各橋の最も適切な整備方針を策定します。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	調査設計	狭あい橋補修計画 策定	用地買収	下部工工事、用地 買収・補償、詳細 設計	上部工工事
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	58,000	10,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	2,910	5,000	4,795	45,976	22,000
事業費 (A)		0	0	2,910	5,000	4,795	103,976	32,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.40	0.70	0.70	0.70	0.70
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	3,357	5,850	5,850	5,850	5,850
フルコスト (A+B)		0	0	6,267	10,850	10,645	109,826	37,850

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 下吉沢2号橋の用地買収を行います。	
平成22年度の取組方針	
橋りょう整備計画を定めるため利用実態調査を行い、利用交通量の把握と架け替えに対する整備効果算定等を行い、整備計画を策定します。	
課長コメント	歩行者の安全性や車両通行の円滑化のため、整備計画を策定し優先順位を定め整備を進めます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果		平成20年度に予定している、下吉沢2号橋の調査設計委託のための準備を行った。	下吉沢2号橋の測量調査設計委託を行いました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		地域住民からの整備要望箇所であり、地域の方々の協力を得て事業を進めるが、整備計画については優先順位を定め対応する。	狭あい橋の改修を進めるにあたり現橋の状況（車道幅員、歩道の有無等）、地域の利用特性、整備効果等から各橋の最も適切な整備方針を策定します。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		橋りょう整備計画に基づき実施する。	橋りょう整備計画を定めるため利用実態調査を行い、利用交通量の把握と架け替えに対する整備効果算定等を行い、整備計画を策定します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	歩道を整備することで安全性が保たれ、快適な生活環境が図れることから、必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	歩行者に対する安全の確保や、車両の通行の円滑化が図れ、有効性は高いと考えます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	安全で快適な生活環境の確保には歩車道分離が有効であり、妥当性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	交通量の多い幹線道路に歩道を設置することにより交通の円滑化と安全性が確保され、交通体系の効率化が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行います。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			用地買収	用地買収	用地買収、歩道整備	用地買収、歩道整備	歩道整備、用地買収・補償	歩道整備、補償
財源内訳	国庫支出金	0	39,676	720	59,169	77,520	28,380	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	14,300	260	42,000	30,000	90,000	40,320
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	65,791	28,501	135,312	78,900	75,640	31,680
事業費 (A)		0	119,767	29,481	236,481	186,420	194,020	72,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.05	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	8,811	9,231	9,192	9,192	9,192	9,192
フルコスト (A+B)		0	128,578	38,712	245,673	195,612	203,212	81,192

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 引き続き浅間町・南原線、寺田縄・飯島線の用地買収を進めながら、並行して歩道整備工事を行います。また、入野・岡崎線の整備を進めるため、測量を行います。	
平成22年度 of 取組方針	
効率的に用地買収を進めます。(国庫補助事業として実施)	
課長コメント	歩道整備は、歩行者の安全確保や交通の円滑化のため、必要不可欠な事業ですが、用地買収や工事に相当な費用がかかるため、今後も国庫補助事業として計画的に進めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		浅間町・南原線の用地買収及び物件移転補償、及び寺田縄・飯島線の測量調査委託を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化に向けた事業進捗をはかった。	浅間町・南原線、寺田縄・飯島線の用地買収及び物件移転補償を行うことにより、歩行者に対する安全の確保及び車両通行の円滑化を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行う。	歩道設置工事箇所を設定し、計画的に用地買収を行います。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		効率的に用地買収を進めたい。(国庫補助事業として実施)	効率的に用地買収を進めます。(国庫補助事業として実施)
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	排水路の上部を有効活用しコミュニティ道路として整備することは、市民の快適な生活環境が図られることから必要性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	排水路の上部を利用したコミュニティ道路は、土地の有効活用が図られることから有効性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	安全で快適な生活環境の確保から妥当性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	地域住民とのワークショップ等により、理想的な道路整備が図られ効率性は高いと考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 地域住民と連携した道づくりが必要であり、今後も引き続いて関係団体との協議を進めながら取り組みます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			歌川排水路上部整備	歌川排水路上部整備	歌川排水路上部整備	工事、補償	工事、用地買収・補償、測量	工事、補償
財源内訳	国庫支出金	0	0	2,750	7,700	7,392	7,920	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	5,000	39,000	30,000	17,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	13,760	32,779	19,300	22,952	25,884	14,904
事業費 (A)		0	13,760	35,529	32,000	69,344	63,804	31,904
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.85	0.90	0.70	0.70	0.70	0.70
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,133	7,552	5,850	5,850	5,850	5,850
フルコスト (A+B)		0	20,893	43,081	37,850	75,194	69,654	37,754

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 継続して歌川分流排水路や谷川排水路の整備を進めます。また、新たに長持56号線の整備を開始します。	
平成22年度 of 取組方針	
市民の憩いの場や交流の場として、排水路の上部をコミュニティ道路として整備します。	
課長コメント	歌川分流排水路の暗渠化については、計画段階から地域の人々が参加した道づくりを進め、完成後の管理面を含めて地元自治会と役割分担等協議していきたい。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		田村131号線（歌川分流排水路）の暗渠化整備を行うことにより、潤いと安らぎのある生活空間を創出できた	中原21号線外2路線（谷川排水路）の測量調査設計、田村131号線（歌川分流排水路）整備工事及び測量調査設計を行いました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		地域住民と連携した道づくりが必要であり、関係団体との協議を進めながら取り組む。	地域住民と連携した道づくりが必要であり、今後も引き続いて関係団体との協議を進めながら取り組みます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	拡大して継続
取組方針		継続して歌川分流排水路の整備を進める。また、谷川排水路の工事を開始する。	市民の憩いの場や交流の場として、排水路の上部をコミュニティ道路として整備します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	農業集落排水整備事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
予算科目	14-010101-030200	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	地域再生法		
対象・受益者	市民	事業期間	平成16年度～平成27年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
農業集落排水区域内市民の、水洗化による衛生的な生活環境の向上が図れています。		河川の水質保全や公衆衛生の向上のため、西部丘陵地域（土屋・吉沢地区）の下水道（汚水）を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	集落排水進捗率						単位	%
	説明・算定式	全体延長36,929m							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		26	38	48	51	60	69	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
土屋、吉沢地区の管渠築造工事だけでなく、土屋汚水処理施設の建設にも着手しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	農村地域における資源循環の推進を図りつつ農業用排水の水質保全により農村の生活環境の改善を図ります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	農業集落における生活排水を処理する施設を設置することにより県条例に定める水質を確保できます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	地域再生法に基づく交付金(5/10)とともに県補助金(1/10)を受け、整備費の一部を受益者から徴収します。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	経済性や事業効果等を検討し、合併処理浄化槽事業との整合を図ります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

今後の管渠埋設においては、道路の拡幅整備を行いながら施工しなければならない箇所が出てきます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			管渠築造工事	管渠築造工事・処理場整備・用地買収	管渠築造工事・処理場整備	管渠築造工事・処理場整備	管渠築造工事・処理場整備	管渠築造工事・処理場整備
財源内訳	国庫支出金	0	240,025	261,000	225,000	307,500	196,785	226,485
	県支出金	0	46,505	52,200	45,000	60,000	39,357	45,297
	起債	0	185,500	226,900	394,700	320,800	225,600	321,400
	その他 特財	0	0	8,300	14,274	0	0	0
	一般財源	0	2,315	12,952	37,081	36,312	24,329	31,789
事業費(A)		0	474,345	561,352	716,055	724,612	486,071	624,971
執行率(%)		—	—	—				
内訳	職員(人)	0.00	3.60	3.60	4.40	4.40	4.40	4.40
	再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費(B)		0	30,208	30,208	36,767	36,767	36,767	36,767
フルコスト(A+B)		0	504,553	591,560	752,822	761,379	522,838	661,738

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 地域再生法による年間事業費が確定していることから現状の規模での継続とします。	
平成22年度の取組方針	
地域住民の理解を得て、平成27年度末の完了を目指し、着実に事業を実施します。	
課長コメント	管渠築造延長が計画を上回ったため、計画どおりの進捗率となりました。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	②：若干遅れている	①：予定どおり
主な取組と成果		土屋地区だけでなく、吉沢地区の管路築造工事にも着手した。	土屋、吉沢地区の管渠築造工事だけでなく、土屋汚水処理施設の建設にも着手しました。
検証結果	—	B：おおむね成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		今後の管渠埋設においては、農道の改修を含め、埋設位置を確保しながら施工しなければならない箇所が出てくる。	今後の管渠埋設においては、道路の拡幅整備を行いながら施工しなければならない箇所が出てきます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		事業計画の着実な実施	地域住民の理解を得て、平成27年度末の完了を目指し、着実に事業を実施します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公共下水道合流改善事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
予算科目	05-010201-030300	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法施行令の一部を改正する政令		
対象・受益者	市民	事業期間	平成13年度～平成25年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
雨水・汚水の完全分流化により、水質汚濁防止ができ、区域内市民が快適に暮らしています。		合流式公共下水道区域から大雨の際に未処理水が河川へ放流されることを削減するため、貯留管などを設け公共用水域の水質を保全します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	緊急合流改善進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：シールド工事27%、H20：導水管布設44%、H21：揚水施設築造：29%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		27	71	100				
	実績		27	71					
成果指標②	指標名							単位	%
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
馬入雨水貯留管揚水施設工事に着手しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	汚濁負荷量の削減及び公衆衛生上の安全確保、夾雑物除去を行います。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	分流式下水道並の水質とするため有効です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	合流式下水道緊急改善事業として国庫補助金(5/10)を受けています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	合流式下水道区域の完全分流化には、多大な事業費と時間を要するため当面の計画としてJR東海道線南側区域も雨水貯留管による対応とします。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

合流改善事業においては、JR東海道線南側の対応を国の動向や昨年大雨を受けて貯留管方式による改善とし、国の同意を得て平成25年度末までに完了させます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			シールド工事・浸透樹設置	導水管布設工事・浸透樹設置	揚水施設築造工事・浸透樹設置	貯留管築造工事	貯留管築造工事 導水管築造工事	貯留管築造工事 導水管築造工事
財源内訳	国庫支出金	0	353,100	287,055	157,372	332,500	1,166,000	1,865,500
	県支出金	0	1,377	1,901	1,472	1,935	6,996	11,193
	起債	0	342,400	331,000	354,900	300,500	1,159,000	1,854,300
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	234	3,549	244	10,065	4	7
事業費(A)		0	697,111	623,505	513,988	645,000	2,332,000	3,731,000
執行率(%)		-	-	-				
内訳	職員(人)	0.00	2.95	2.95	2.05	2.05	2.05	2.05
	再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費(B)		0	24,754	24,754	17,130	17,130	17,130	17,130
フルコスト(A+B)		0	721,865	648,259	531,118	662,130	2,349,130	3,748,130

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
●現状の規模で継続 ○拡大して継続 ○縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<判断理由> JR東海道線南側の緊急合流改善事業(H22~H25)の初年度であるため現状の規模で継続していきます。	
平成22年度取組方針	
国、県、関係各課との協議を進め、着実に事業をスタートします。	
課長コメント	平成25年度の完成を目指してJR東海道線南側の合流改善事業を進めていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		馬入雨水貯留管築造工事に着手した。	馬入雨水貯留管揚水施設工事に着手しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		合流改善事業においては、JR東海道線南側の対応を国の動向や昨年の大雨を受けて完全分流化するか雨水貯留管による対応とするのか早期に方向付けをする必要がある。	合流改善事業においては、JR東海道線南側の対応を国の動向や昨年の大雨を受けて貯留管方式による改善とし、国の同意を得て平成25年度末までに完了させます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		着実な事業の完了、供用開始。	国、県、関係各課との協議を進め、着実に事業をスタートします。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	公共下水道整備事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
予算科目	05-010201-040000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
公共下水道を整備促進し、利用増進を図ることにより、市民が健康で快適に暮らしています。		河川の水質保全や公衆衛生の向上及び浸水防止のため、市街化区域や市街化調整区域の公共下水道（汚水・雨水）を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	整備面積進捗率						単位	%
	説明・算定式	全体整備面積3141.76ha							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		92.6	93.2	94.5				
成果指標②	指標名							単位	%
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を進めました。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事にも着手しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	浸水区域の解消と公共用水域の水質保全のために必要な事業です。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続的に整備を進めて行くことで水質保全と浸水解消が達成されます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	汚水は、受益者から負担金等を徴収しています。雨水は、公費負担となっています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	経済性や事業効果等を検討し、工法や整備箇所を決定しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

雨水整備を進めていますが、県が管理している河川の水位上昇による影響で内水が排除できない地域があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事	管渠築造工事
財源内訳	国庫支出金	0	249,358	185,936	191,017	199,275	223,050	56,630
	県支出金	0	900	856	1,139	988	1,338	1,083
	起債	0	555,700	469,100	1,048,900	1,028,500	221,000	302,000
	その他 特財	0	0	19,239	30,965	41,547	712	1,287
	一般財源	0	250,279	54,198	43,181	0	0	0
事業費 (A)		0	1,056,237	729,329	1,315,202	1,270,310	446,100	361,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	3.50	3.50	5.25	5.25	5.25	5.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	29,369	29,369	43,869	43,869	43,869	43,869
フルコスト (A+B)		0	1,085,606	758,698	1,359,071	1,314,179	489,969	404,869

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 浸水箇所は多数あり、また、富士見町や金目地区などの汚水整備が残っている地区があることから現状規模での継続が必要です。	
平成22年度 of 取組方針	
未普及地区と浸水箇所の解消を図ります。	
課長コメント	整備は進めているが、河川水位が原因で浸水が解消できていないので、今後、県などに対して河川整備要望を行っていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を始めた。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事にも着手した。	市街化区域で面的に未整備な富士見町地域の汚水整備を進めました。また、長年の懸案であった中里地区の雨水幹線工事にも着手しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		雨水整備を進めているが、河川水位上昇の影響により雨水が排除できない状況になっている。	雨水整備を進めていますが、県が管理している河川の水位上昇による影響で内水が排除できない地域があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		浸水区域を解消するため長持地区のポンプ場建設を検討する。	未普及地区と浸水箇所の解消を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	東部ポンプ場改修事業		
事業担当	土木部 下水道整備課		
予算科目	05-010201-050100	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	02	②〈住みごこち〉人にやさしい居住空間をつくる	
	02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	下水道法		
対象・受益者	市民	事業期間	～平成23年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
ポンプ場機能の確保と環境改善を図ることにより、市民が安全で快適に暮らしています。		ポンプ場機能の確保と環境改善のため、汚水路の改修や雨水ポンプ用エンジンの電動化を図ります。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	ポンプ場改修進捗率						単位	%
	説明・算定式	平成22年度を100%とした雨水ポンプ改修進捗率 H18年度まで：13%、H19：5%、H20：28%、H21：27%、H22：27%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		18	46	73				
	実績		18	46					
成果指標②	指標名							単位	%
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
東部ポンプ場周辺環境対策のため非常用発電機及び周辺機器の更新を行うとともに、併せて浸水対策を図りました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市の施設である公共下水道ポンプ場が騒音等の不適合であり、周辺住民対策として可能な限り早急に完了する必要があります。また、浸水対策として非常用発電機の設置位置を変更しました。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	法の遵守及び周辺住民対策として有効です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	供用開始後36年経過した施設であり、騒音規制などの不適合が無くても改築の時期に達しています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	不適合解消のため継続事業として実施しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 H19年7月の冠水を受けて、電気・機械設備の耐水性向上に努めます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			汚水流出ゲート改修・非常用発電機設置工事	汚水流出ゲート改修・非常用発電機設置工事	雨水ポンプ電動機設置工事に向けた検討	雨水ポンプ電動機設置工事	雨水ポンプ電動機設置工事	
財源内訳	国庫支出金	0	24,950	0	0	54,500	50,000	0
	県支出金	0	57	0	0	327	150	0
	起債	0	25,400	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	93	328,996	0	54,173	92,350	0
事業費 (A)		0	50,500	328,996	0	109,000	142,500	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.25	0.25	0.40	0.40	0.40	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,098	2,098	3,343	3,343	3,343	0
フルコスト (A+B)		0	52,598	331,094	3,343	112,343	145,843	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 浸水に強いポンプ場とするため、継続事業として工事を実施します。	
平成22年度の実行方針	
雨水ポンプ1基の駆動方式をディーゼルエンジンから電動モーターにします。	
課長コメント	騒音規制などを準拠するため進めている工事であり速やかな完成が望まれます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		機械の設計及び製作を行い、翌年度の設置に向けた準備を行った。	東部ポンプ場周辺環境対策のため非常用発電機及び周辺機器の更新を行うとともに、併せて浸水対策を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		H19年7月の冠水を教訓に、電気・機械設備の耐水性の向上について可能な措置を講じる必要がある。	H19年7月の冠水を受けて、電気・機械設備の耐水性向上に努めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		平成19年度にポンプが浸水したことにより、エンジン部分を地盤面より上部に設置します。	雨水ポンプ1基の駆動方式をディーゼルエンジンから電動モーターにします。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	入野雨水幹線の開渠を暗渠化することにより、住民が安全かつ快適な生活を送れます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	入野雨水幹線の暗渠化完了後の早急な道路整備が必要です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	生活道路を効果的に活用するため雨水幹線を改修します。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	現場にふさわしい工法を採用しコスト削減を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いが、効率性の部分で工法検討を行い、更なるコスト削減に取り組みます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			入野雨水幹線改修 工事	入野雨水幹線改修 工事	入野雨水幹線改修 工事	用地買収に協力		
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	106	111	90	0	0	0
	起債	0	35,200	36,900	29,900	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	24	50	10	0	0	0
事業費 (A)		0	35,330	37,061	30,000	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.40	0.40	0.50	0.50	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	3,357	3,357	4,178	4,178	0	0
フルコスト (A+B)		0	38,687	40,418	34,178	4,178	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 道路整備課による用地買収に協力します。	
平成22年度の実行方針	
平成21年度事業において未整備の部分については平成22年度に用地買収を行うこととしており、事務事業として位置付けることとします。	
課長コメント	平成22年度の用地買収を確認し、平成23年度に買収地を利用して雨水渠を築造します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		入野雨水幹線において既設開渠を暗渠化し、147m整備を図った。	入野雨水幹線において既設開渠を暗渠化する整備を行いました。 入野雨水幹線築造工事 雨水：L=130.0m
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で工法検討を行い、更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高いが、効率性の部分で工法検討を行い、更なるコスト削減に取り組みます。
事業の方向性	—	拡大して継続	縮小して継続
取組方針		平成20年度に引き続き入野雨水幹線を改修し暗渠化を図る。	平成21年度事業において未整備の部分については平成22年度に用地買収を行うこととしており、事務事業として位置付けることとします。
事業区分	—	実施計画事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。